

【施策評価調査】

施策名	2-2-5	認知症高齢者対策の推進		87	高齢者が明るく(安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために) 1. 子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2. 要支援要介護にならない予防策 3. 地域包括支援センターの有効活用 4. 高齢者の社会参加と学習機会の提供 5. 安定した生活支援 6. 地域協力の体制づくりを構築する 当該施策は、6.の観点から徘徊高齢者を早期に見発見できるよう地域の協力を得ながら見守る体制を確立していくことと介護者負担の軽減を図っていきます。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部健康福祉課	担当 リーダー	社会福祉担当 赤羽一夫		
環境変化	高齢化の進展とともに認知症高齢者も増加にあります。それに伴い、徘徊高齢者の家族の負担が重くなっています。			施策目的	認知症高齢者とその家族に対する支援の充実に努めます。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標 : 徘徊高齢者探索端末購入補助申請者数(単位:人)	平成16年	計画	10人	15人	20人	25人	30人
		実績	0人	0人	0人		
指標 : 介護者のつどい開催回数(単位:回)	平成18年	計画			3回	4回	5回
		実績			1回		
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	100,000	100,000	100,000		
	決算	0	0	0		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
徘徊高齢者探索端末購入補助	当初 100,000	補助申請者数	A	機器の導入に対する理解が得られていない。認知症サポーター講座を3回(参加者120人)開催した。			
	決算 0	0 / 10人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価		課題と今後の方向性	
	認知症サポーター講座を開催し、広く認知症の理解を得ることは、認知症家族会等の設置や徘徊高齢者探索端末機器の導入につながる。		認知症家族会の設置や、認知症への理解を深めるための講座を開催し、認知症への偏見の解消や地域での見守りをするなどして、機器導入の必要な家族への対応をしていく。	
総合評価	■ 総合評価 ■ 期待した成果が得られていないと評価する。 後期計画策定に向け、「2-2-3高齢者の生きがい支援」、「2-2-4高齢者の生活支援」との施策間の事務整理を行うとともに、支援体制を地域や他機関と役割分担し、町のすべきことを検証・検討すること。また、サポーターについては、他課の事業との連携も視野に入れること。			